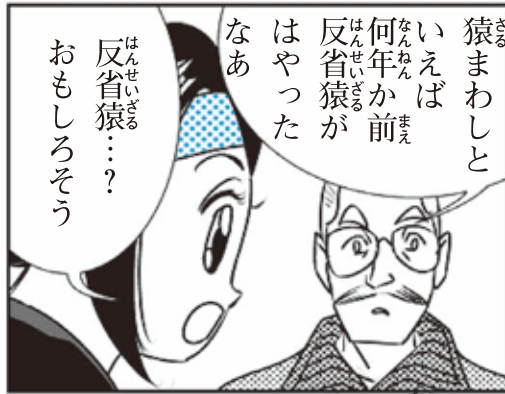




人権まんが解説

猿まわしといえ、

テレビのCMで一躍有名になった、あの「反省猿」を思い出す人も少なくない

と思います。古くから猿まわしは

「魔を去る」と信じられており、非常に縁起の良い芸として人々に親しまれていました。

村崎さんの生まれ故郷は、明治・大正時代には百五十人をこえる猿まわし師の拠点でしたが、猿まわしが差別部落の芸であったこともあり姿を消してしまいました。

猿まわしの復活に尽力された、太郎さんの父、村崎義正さんの著書の中には、次のようなことが記されています。

「この親たちは、子どもたちにとこが猿まわしのふるさとだったこと

を絶対話さない。かつて猿まわしが

厳しい差別にさらされ、口では言えないくらい、つらい思いをいやとい

うほど味わつてきたから」

このため、芸を復活させることは「わざわざ差別を呼び込むようなもの」といった声もありましたが、必死の努力により、猿まわしは見事に復活し、文化庁芸術祭賞を受賞するまでの芸能となりました。

部落差別の歴史は非常に長く、厳しく、現在でもインターネットなどで新たな私たちの差別事象が起こっているのが現実です。

同和問題をはじめとするあらゆる人権問題について正しい理解と認識を深めるとともに、私たち一人ひとりが自らの問題として捉え行動することが大切です。

松野さんといえば、明るい性格の持ち主で有名ですが、子どもの頃は内気な性格だったそうです。しかし、町内のマラソン大会で優勝したことで、自分に自信を持つことができた。何よりゴールで迎えてくれる家族の笑顔が忘れられなかったそうです。その後、選手となり厳しい練習を積み重ねてオリンピック出場を果たしました。

12月9日「人権週間のつどい」

松野明美さん講演会報告

子育ての話では、自分の子どもが心臓病とダウン症を持つと診断され、子育てへの不安、さらには「なぜこの子は私を選んで生まれてきたのか」と憤りを感じることもさえたそうです。しかし、保育園では、ほかの子たちの真似をすることで、できないことも自然とできるようになりました。さらに、小学校では、ク

ラスのムードメーカーと周囲から言われるようになりました。我が子が成長していく姿を見たとき、松野さんは、「この子は私が選んだんだ」「一番じゃなくてもいいんだ」と気持ちの変化があったことを話されました。

大きな身振りを交えた松野さんのお話に、会場のお客さんも楽しそうに聞いていました。



文化会館講座のおしらせ

今年度から自主講座として、ハワイアンフラダンス教室を開講しました。見学は自由ですので興味のある人はぜひお越しください。



開講中の講座

- ・ 子ども硬筆
- ・ 木彫教室
- ・ 茶道
- ・ 子ども茶道
- ・ 手芸教室
- ・ いけばな教室

吉田文化会館では、市民の皆さんが楽しみながら受講できる講座を開設しています。お気軽にご参加ください。

問合せ 吉田文化会館 ☎1069

よしだ文化会館だより ③